DOWN AND OUT IN PARIS AND LONDON

ーああ、貧乏というのは、何という災いだろう！ー

2016.11.9 wed 14：30 開演
19：30 開演

会場 キッド・アイラック・アート・ホール

作
ジョージ・オーウェル

出 演
高橋 和久　朗 読
芹澤　朋　アコーディオン

演 出
新 見　真 琴

◇上演にあたって◇

全体主義を鋭く風刺、批評した小説『動物農場』や、村上春樹の『１Q８４』をはじめとする多くの作品に影響を与えている小説『１９８４年』で世界中に知られているジョージ・オーウェル。そのデビュー作が世界恐慌の余波の残るパリ、ロンドンで実際に彼が体験したどん底生活のルポルタージュであることはあまり知られていない。

私は、この貧民街の人間模様や浮浪者の生活を生き生きと描いた彼が、人間の芯、社会の真実を追求、理解しようと努め続けることの大切さを語っているような気がするのです。そしてそれはジョージ・オーウェルの生涯を通した思想だったのではないでしょうか。そんな彼の原点ともいえる作品ですが、出版までは容易ではなかったようで、当時校閲者として勤めていたT・S・エリオットにも酷評され出版を断られています。そして、出版が決まった時、彼自身もこの作品の内容が両親を当惑させることを恐れて、ペンネームである「ジョージ・オーウェル」を使うことを決め、デビューへと至ったのです。

『DOWN AND OUT IN PARIS AND LONDON』が１９３３年１月に出版されてから１７年後オーウェルは結核の為に４６歳で亡くなりますが、彼は亡くなる前、火葬ではなく土葬にして欲しいと言い、そのように埋葬されました。それは、作品に登場するロンドンの路上で彼が出会った大道絵師ボゾの妙な話を思い出していたからではないかと私は思っています。彼は生涯どん底で出会った人たちの言葉を一つ一つ忘れず、その時の感情を糧にしていたことは間違いないのではないでしょうか。

我々の今暮らす日本にも、決して遠くない貧困問題があることは確かだ。「ワーキングプア」こんな言葉が無くなる日はくるのだろうか。８０年以上前のヨーロッパの一角から、私は考えさせられているのである。

演出家　新見真琴

ジョージ・オーウェル（作家・ジャーナリスト）

１９０３／６／２５	英領インド　ベンガルにて出生。
１９２２～１９２７	ビルマ英領インド帝国警察勤務。
１９２８～１９２９	パリ労働者階級の地区で暮らす。皿洗いとしておそらくオテル・ロティあるいはクリヨンで働く。
１９３０～１０３１	貧しい者たちと一緒にロンドンで放浪生活をする。
１９３３	『パリ・ロンドンどん底生活』がヴィクター・ゴランツ社から出版される。
１９４１～	BBC東洋部インド課にトーク番組助手として加わり、ニュース解説をインド東南アジア向けに書く。
１９４３	BBCを辞め、文芸担当編集者として「トリビューン」に入るが、健康状態が良くない。
１９４３／１２～１９４４／２	『動物農場』（１９４５出版）を書く。
１９４７／４～１２	ジュラ島で体調優れぬまま『１９８４年』第一稿を書く。
１９４８／１	『１９８４年』（１９４９出版）第二稿を書き終える。
１９５０／１／２１	両肺から大量喀血のため死亡。

公演日時　2016年11月9日(水)　昼公演14:30開演　14:00開場
夜公演19:30開演　19:00開場

料　金　　前売り2,500円　当日3,000円

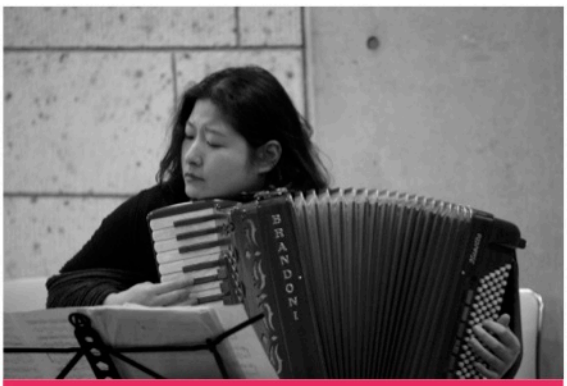
問合せ申込み　キッド・アイラック・アート・ホール
TEL　03-3322-5564

照　明　　早川 誠司
制　作　　吉岡 孝子　YUKIプロデュース　　協　力　IBUKI

会場へのアクセス

東京都世田谷区松原２の４３の１１
京王線　京王井の頭線・明大前駅より徒歩２分

高橋 和久
俳優　演出家　ナレーター
1975年12月27日福島県郡山市出身 桐朋学園大学短期大学部（現桐朋学園芸術短期大学）芸術科演劇専攻卒業。横浜ボートシアターに入団。1997年シンガポール芸術祭でデビュー。国内をはじめ2003年モルドバ・イヨネスコ演劇祭／ルーマニア・シビウ国際演劇祭にて公演。仮面劇『王サルヨの婚礼』などに参加。同劇団での主演作『遠藤啄郎のアメリカ！』『神だのみ』『軽の太子とその妹』。2005年には、ドイツのヨッシ・ヴィーラー氏の演出『四谷怪談』で直助権兵衛役に抜擢。東京/山口／ベルリン/オランダ等欧州でツアー。2006年同劇団を退団する。在団中から外部出演も多く主演作も多い。朗読公演『平家物語ヲ、語ル、読ム、弾ク』シリーズ。朗読劇『神の詩　バガヴァッドギーター』浅田次郎作『天切り松闇語り』ストラヴィンスキー『兵士の物語』など多数。TV映画　ナレーション　ラジオドラマ等　ジャンルを問わず活躍する。2013年には、塩屋俊氏と共同で『HIKOBAE2013』を演出し被災地を皮切りにロサンゼルス、ニューヨークで公演。その後国内各地で公演し好評を得た。2015年、フランスのモリエール賞受賞作家ピエール・ノットの作・演出で代表作『私もカトリーヌ・ドヌーヴ』を上演。自身の新しい境地を開拓した。



芹澤 朋（せりざわ とも）
文化のるつぼ、メキシコで育つ。８歳で帰国。
２１歳でアコーディオンを演奏しはじめる。
クラシック和声、作曲論二ノ宮洋、コンテンポラリージャズ作曲論松井秋彦
アコーディオン平山尚、金子元孝、各氏に短期間師事。
音楽を含め、基本的に独学。

◇主な音楽担当作品
林雅行監督映画「人間の碑」
関口裕加監督映画「毎日がアルツハイマー」
クリエイティブ２１主催舞台「 負けえせん」
翠羅白演出「パレスチナキャラバン」プレ企画
講談社ＭＯＯＫ「栗林忠丈からの手紙」付録ＣＤ
宇井孝司朗読劇集「祈り三部作」　「ささやきの物語」
文様創造アート「カレイドデコ」を主宰
オリジナルメソードによる「山手子供音楽教室」を主宰